

2015年度(平成28年3月期) 決算説明資料

2016年5月10日

株式会社 IHI



1. 2015年度 連結決算	
連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	9
特別損益.....	10
連結貸借対照表.....	13
連結キャッシュ・フロー計算書.....	15
補足資料.....	16
2. 2016年度 連結業績見通し	
通期業績見通し.....	18
報告セグメント別内訳.....	19
3. 報告セグメント別の概況	
資源・エネルギー・環境.....	23
社会基盤・海洋.....	25
産業システム・汎用機械.....	27
航空・宇宙・防衛.....	29
<参考資料>	31

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2015年度 連結決算

1. 2015年度 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2015年度 売上平均レート(米ドル) 118.27円

2016年2月2日公表 業績予想

(億円)

	2014年度	2015年度	増 減
受 注 高	16,643	15,000 16,053	1,053 ▲ 590
売 上 高	14,558	15,500 15,393	▲ 107 835
営 業 利 益	632	250 220	▲ 30 ▲ 412
経 常 利 益	565	150 97	▲ 53 ▲ 468
税金等調整前 当期純利益	272	▲ 16	▲ 289
親会社株主に帰属する 当期純利益	90	▲ 300 15	315 ▲ 75

1. 2015年度 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

2016年2月2日公表 業績予想

(億円)

	受注高			受注残高		
	2014年度	2015年度	増減	2014年度	2015年度	増減
資源・エネルギー・環境	5,827	4,300 5,327	1,027 ▲500	7,604	8,434	830
社会基盤・海洋	1,787	1,400 1,285	▲115 ▲502	2,319	1,943	▲376
産業システム・汎用機械	4,150	4,200 4,218	18 68	1,210	1,380	170
航空・宇宙・防衛	4,680	4,900 5,156	256 475	5,107	5,410	303
報告セグメント計	16,446	14,800 15,987	1,187 ▲459	16,241	17,168	926
その他	752	657	▲95	312	247	▲64
調整額	▲555	▲591	▲36	-	-	-
合計	16,643	15,000 16,053	1,053 ▲590	16,554	17,416	862
海外受注高・受注残高	8,360	7,263	▲1,096	8,087	7,579	▲508
海外受注高・受注残高比率	50%	45%	▲5%	49%	44%	▲5%

1. 2015年度 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

2016年2月2日公表 業績予想

	売上高			営業利益		
	2014年度	2015年度	増減	2014年度	2015年度	増減
資源・エネルギー・環境	4,153	4,524	371	240	22	263
社会基盤・海洋	1,886	1,681	204	32	489	457
産業システム・汎用機械	4,117	4,047	69	102	126	24
航空・宇宙・防衛	4,348	5,002	653	395	584	188
報告セグメント計	14,505	15,255	750	706	198	508
その他	628	698	69	12	21	8
調整額	▲575	▲560	15	▲86	0	87
合計	14,558	15,393	835	632	220	412

1. 2015年度 連結決算

報告セグメント別内訳(営業利益の前年度比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	合計
資源・エネルギー・環境	57	▲ 272	8	▲ 56	▲ 263
社会基盤・海洋	▲ 12	▲ 442	▲ 5	2	▲ 457
産業システム・汎用機械	▲ 15	69	6	▲ 36	24
航空・宇宙・防衛	63	95	85	▲ 55	188
報告セグメント計	93	▲ 550	94	▲ 145	▲ 508
その他	14	▲ 4		▲ 2	8
調整額		87		1	87
合計	107	▲ 467	94	▲ 146	▲ 412

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

工事採算変動の内訳

資源・エネルギー・環境

- ・ボイラにおける溶接不適合問題に対する対応費用の発生
(設計指示と異なる溶接材料を使用していたために必要となった補修費用など)
- ・ガスプロセスにおける採算悪化

社会基盤・海洋

- ・F-LNG・海洋構造物における採算悪化
(愛知工場の生産混乱や、工程及び工法の見直しに伴う追加費用など)
- ・イズミット湾横断橋建設工事の追加工事費用発生
(足場落下事故に対する工程キャッチアップ費用など)

産業システム・汎用機械

- ・熱・表面処理, 圧縮機及び車両過給機の採算改善

航空・宇宙・防衛

- ・民間向け航空エンジンの採算改善

1. 2015年度 連結決算 営業外損益

(億円)

	2014年度	2015年度	増 減
金 融 収 支	▲ 18	▲ 10	8
持分法による投資損益	▲ 17	11	28
為 替 差 損 益	52	▲ 51	▲ 103
そ の 他	▲ 84	▲ 73	10
営業外損益	▲ 67	▲ 123	▲ 56

期末日レートの変動(米ドル) 2014年度 +17.25円 (期首102.92円→期末120.17円)
2015年度 ▲7.49円 (期首120.17円→期末112.68円)

1. 2015年度 連結決算 特別損益

(億円)

	2014年度	2015年度	増 減
固定資産売却益	-	286	286
退職給付信託設定益	-	63	63
投資有価証券売却益	-	18	18
特別利益	-	368	368
契約納期遅延に係る費用	-	▲ 446	▲ 446
関係会社株式評価損	-	▲ 17	▲ 17
関係会社損失引当金繰入額	-	▲ 17	▲ 17
減 損 損 失	▲ 1	0	0
関係会社事業損失	▲ 290	-	290
特別損失	▲ 292	▲ 481	▲ 189
特別損益	▲ 292	▲ 113	179

1. 2015年度 連結決算 特別利益(固定資産売却益)

財務基盤の強化を目的として、以下の固定資産売却を実施しました。

「ららぽーと豊洲」の土地売却

当社が所有する豊洲地区の土地の一部を、三井不動産株式会社へ賃貸し、同社が「ららぽーと豊洲」(商業施設)を運営していました。同社に対し、賃貸している土地の一部を譲渡いたしました。

その結果、197億円の固定資産売却益を計上しました。

「豊洲フロント」の共有持分売却

当社が所有する賃貸用オフィスビル「豊洲フロント」の共有持分33%のうち、15%相当を譲渡いたしました。

その結果、87億円の固定資産売却益を計上しました。

1. 2015年度 連結決算 特別損失(契約納期遅延に係る費用)

契約納期遅延に係る費用の内容

当社が受注し、引渡し前の複数のボイラ工事において、当社の在インドネシア子会社であるPT Cilegon Fabricatorsで製作した溶接部位の一部に、設計指示と異なる溶接材料を使用(溶接不適合)していたことが、第3四半期決算時点において判明しました。この溶接不適合への対応に伴う工事遅延などに起因して、複数の案件で契約納期を守れない可能性が高まっています。

また、トルコ イズミット湾横断橋建設工事については、2015年3月に発生した主ケーブル架設用の足場(キャットウォーク)落下事故の復旧工事完了後、工程遅延を挽回すべく建設工事を鋭意進めてきましたが、2016年2月の契約納期に対しては遅延が生じています。

引き続き、安全かつ確実に早期の工事完成に向けて作業を進めていきますが、契約上定められている契約納期遅延に係る費用を請求される可能性を考慮し、その損失見込み額446億円を特別損失に計上しました。

1. 2015年度 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	2014年度末	2015年度末	増 減
資産合計	16,908	17,150	241
(うち 売上債権)	(4,382)	(4,448)	(65)
(うち 棚卸資産)	(3,993)	(4,103)	(110)
負債合計	13,312	13,816	504
(うち 仕入債務)	(3,001)	(2,974)	(▲ 26)
(うち 前受金)	(1,251)	(1,803)	(551)
(うち 有利子負債残高)	(4,106)	(3,745)	(▲ 361)
純資産合計	3,595	3,333	▲ 262
株主資本	3,135	3,058	▲ 76
その他の包括利益累計額	322	124	▲ 197
負債・純資産合計	16,908	17,150	241
D/Eレシオ (※)	1.14倍	1.12倍	▲ 0.02倍
ROIC (※)	5.8%	2.3%	▲ 3.5%

有利子負債残高には、リース債務残高(2014年度末:172億円, 2015年度末:179億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

ROIC=(営業利益+受取利息・配当金)税引後/(自己資本+有利子負債)

1. 2015年度 連結決算 連結貸借対照表

(Estaleiro Atlântico Sul S.A.(EAS:アトランチコスル造船会社)の状況)

2014年度 連結決算時に織り込んだ損失について

当社の持分法適用会社Estaleiro Atlântico Sul S.A.(アトランチコスル造船会社。以下、「EAS」)については、ブラジル経済の急速な悪化やブラジル国営石油公社Petróleo Brasileiro S.A. に関連する大規模な汚職事件の影響により、財政状態および資金繰りが大きく悪化しました。

2014年度連結決算において、今後のEASの事業から発生する可能性が見込まれる損失に備えて、想定可能なブラジル投資に係る損失見積額290億円を、特別損失として計上しました。

2015年度 連結決算時点での状況について

損失の最小化に向けた取り組みを行ってきた結果、2016年4月に、当社の連結子会社Japan EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES 保有のEAS出資持分の全てを、EAS株主であるCamargo CorrêaグループとQueiroz Galvãoグループに譲渡しました。

これにより、EAS関連の関係会社損失引当金と保証債務の全額を取崩しました。2014年度連結決算において計上した関係会社損失引当金を超える追加損失は発生していません。

<関係会社損失引当金残高> (単位:億円)

	2014年度末	2015年度末	増 減
E A S 関 連	215	-	▲ 215
そ の 他	10	28	18
合 計	225	28	▲ 197

<EAS関連 保証債務残高>

	2014年度末	2015年度末	増 減
E A S 関 連	194	-	▲ 194

1. 2015年度 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2014年度	2015年度	増 減
営業キャッシュ・フロー	635	953	317
投資キャッシュ・フロー	▲ 746	▲ 355	390
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 110	598	708
財務キャッシュ・フロー	334	▲ 475	▲ 809

1. 2015年度 連結決算 補足資料

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	2014年度	2015年度	2016年度(見通し)
研究開発費	370	416	400
設備投資額	639	508	700
減価償却費	432	467	480

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産に係る金額を示しています。

(2) 海外売上高

(億円)

	2014年度	2015年度
アジア	1,854	1,804
中国	803	784
北米	2,715	3,366
中南米	314	231
欧州	1,710	1,399
その他	182	383
合計	7,580	7,969
海外売上高比率	52%	52%

2. 2016年度 連結業績見通し

2. 2016年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **110円**
ユーロ **125円**

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 見通し	増 減
受 注 高	16,053	15,000	▲ 1,053
売 上 高	15,393	16,000	607
営 業 利 益	220	650	430
経 常 利 益	97	550	453
親会社株主に帰属する 当期純利益	15	300	285

(注) 2016年度から順次、海外連結子会社の決算期を12月末から3月末へ変更するため、一部の連結子会社については2016年1月から2017年3月までの15カ月間の業績見通しとなっております。

(参考) 為替感応度(為替相場1円の変動により、営業利益に与える影響額)
米ドル **10億円** ユーロ **0億円**

2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 見通し	増 減
資源・エネルギー・環境	5,327	5,000	▲ 327
社会基盤・海洋	1,285	1,200	▲ 85
産業システム・汎用機械	4,218	4,500	282
航空・宇宙・防衛	5,156	4,200	▲ 956
報告セグメント計	15,987	14,900	▲ 1,087
そ の 他	657	700	43
調 整 額	▲ 591	▲ 600	▲ 9
合 計	16,053	15,000	▲ 1,053

2. 2016年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	2015年度 実績		2016年度 見通し		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,524	▲ 22	5,300	160	776	182
社会基盤・海洋	1,681	▲ 489	1,600	30	▲ 81	519
産業システム・汎用機械	4,047	126	4,400	150	353	24
航空・宇宙・防衛	5,002	584	4,600	360	▲ 402	▲ 224
報告セグメント計	15,255	198	15,900	700	645	502
その他	698	21	700	30	2	9
調整額	▲ 560	0	▲ 600	▲ 80	▲ 40	▲ 80
合計	15,393	220	16,000	650	607	430

2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合 計
資源・エネルギー・環境	32	181	▲ 33	2	182
社会基盤・海洋	▲ 22	541	8	▲ 8	519
産業システム・汎用機械	25	24	▲ 8	▲ 17	24
航空・宇宙・防衛	▲ 32	▲ 140	▲ 50	▲ 2	▲ 224
報告セグメント計	3	606	▲ 83	▲ 24	502
そ の 他		10		▲ 1	9
調 整 額		▲ 76		▲ 4	▲ 80
合 計	3	540	▲ 83	▲ 30	430

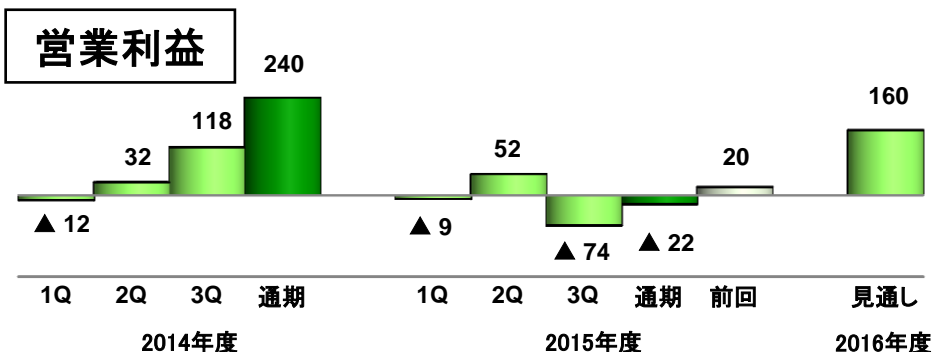
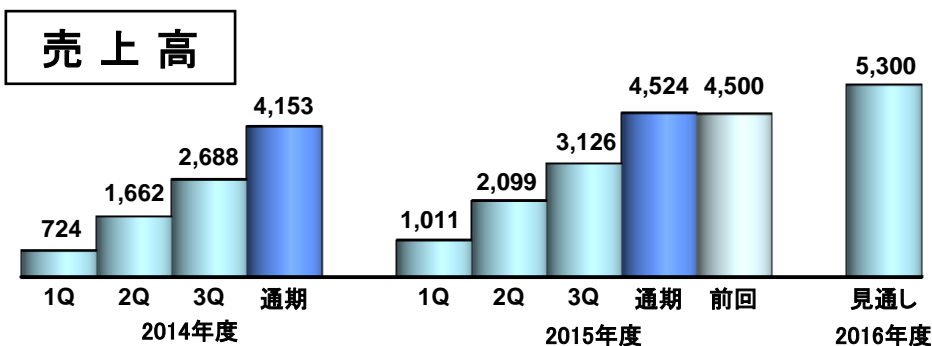
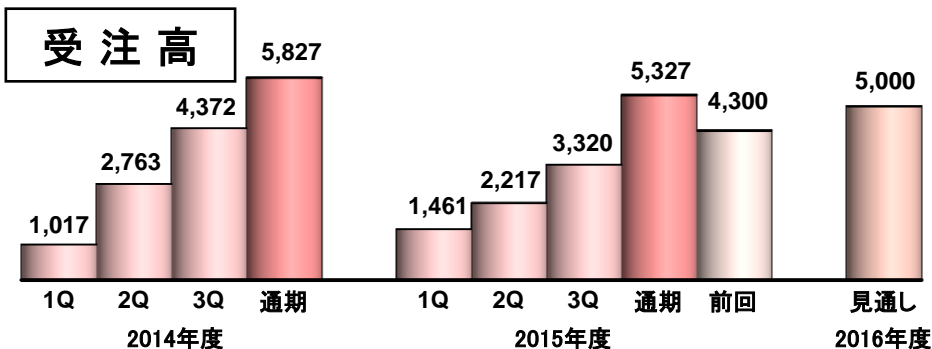
3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2016年2月2日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, ガスプロセス, 原子力, 環境対応システム, 医薬



<対前期 増減内訳>

【受注高】
ガスプロセスにおいて、米国向けエルバ島天然ガス液化設備の受注があったものの、前期に米国向けコーブポイント天然ガス液化設備の受注があったことの反動により、前期に比べ減少しました。

【売上高】
米国向けコーブポイント天然ガス液化設備の工事が進捗しているガスプロセスの増加等により、前期に比べ増収となりました。

【営業利益】
ボイラにおいて、溶接不適合により補修が必要となった工事での大幅な採算悪化があったことに加え、ガスプロセスにおいてコスト増加見通しを織り込んだことで、営業赤字となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

受注高は、ガスプロセスの米国向けエルバ島天然ガス液化設備の受注により、増加しました。
営業利益は、ガスプロセス案件の採算悪化により、減益となりました。

<2016年度見通し>

売上高は、ボイラ、ガスプロセスを中心に増収の見通しです。
2015年度にボイラの溶接不適合への対応費用を計上した反動により、営業利益は大幅に増益となる見通しです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高			売上高								
	'14年度	'15年度	'16年度	'14年度				'15年度				16年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
ボイラ	1,762	1,701	900	203	420	643	885	182	447	569	808	1,200
原動機プラント	396	221	500	39	87	169	289	43	90	198	318	300
陸船用原動機	789	811	750	153	342	507	756	209	376	577	778	650
ガスプロセス	1,371	1,071	1,500	120	312	629	978	306	634	951	1,231	1,600
原子力	344	386	400	59	155	234	385	38	110	147	325	350

・「原子力」の2015年度までの実績は、2016年度のSBU再編に合わせて見直しています。

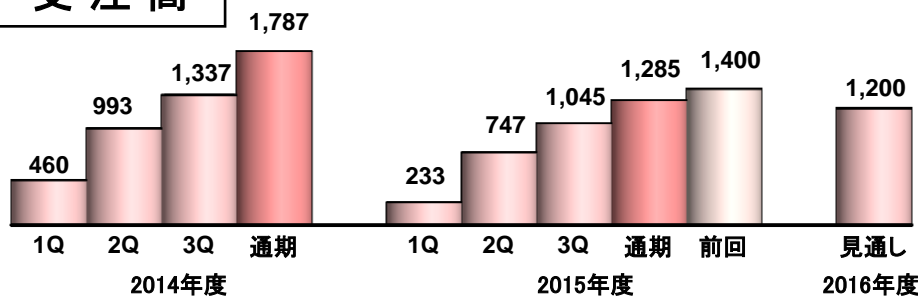
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

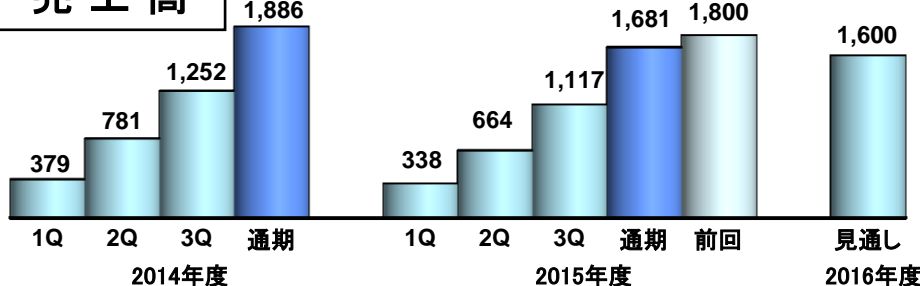
前回: 2016年2月2日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG, 海洋構造物

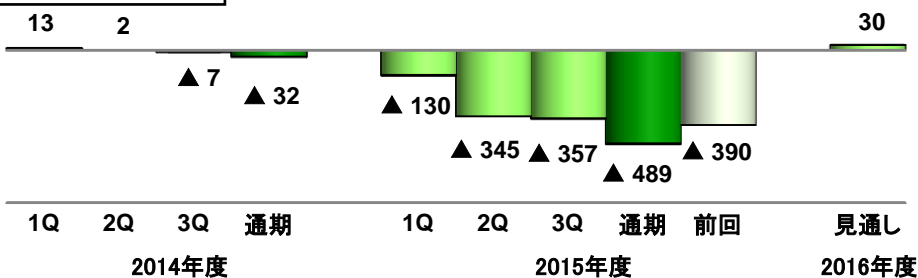
受注高



売上高



営業利益



<対前期 増減内訳>

【受注高】

インド向け貨物専用鉄道橋やバングラデシュ向け橋梁建設及び既存橋改修事業等の受注がありました。現在受注活動を実質的に停止しているF-LNG・海洋構造物において前期に大型案件の受注があったことの反動などにより、前期に比べ減少しました。

【売上高】

トルコ イズミット湾横断橋建設工事の売上高が減少した影響などにより、前期に比べ減収となりました。

【営業利益】

F-LNG・海洋構造物における愛知工場の生産混乱や工程、工法変更に伴う追加費用の計上のほか、トルコ イズミット湾横断橋建設工事における工程キャッチアップ費用の計上により、大幅な営業赤字となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

受注高は、EAS向け工事の受注取消により、減少しました。売上高は、一部工事の進捗遅れによって減収となりました。営業利益は、F-LNG・海洋構造物、トルコ イズミット湾横断橋建設工事の採算悪化により、減益となりました。

<2016年度見通し>

F-LNG・海洋構造物及びトルコ イズミット湾横断橋建設工事で採算悪化が概ね収束する見込みです。

なお、F-LNG・海洋構造物の受注については、手持案件に注力するため、新たな受注を見込んでいません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高			売上高								
	'14年度	'15年度	'16年度	'14年度			通期	'15年度			16年度 通期 (見通し)	
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計		通期
橋梁・水門	546	766	650	227	459	731	1,082	175	337	533	760	600
F-LNG・ 海洋構造物	384	▲155	0	8	77	117	168	36	68	144	214	300
都市開発	160	162	150	78	113	149	192	51	88	127	176	150

・2016年度のSBU再編に合わせて、「橋梁」を「橋梁・水門」に変更し、2015年度までの実績を見直しています。

・「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P35、P36の<参考資料>をご覧ください。

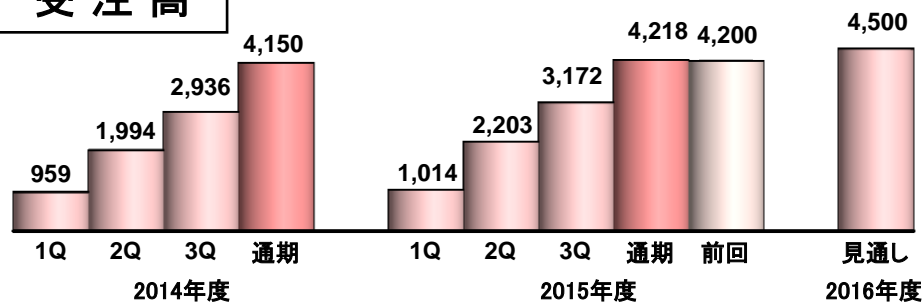
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2016年2月2日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

受注高



<対前期 増減内訳>

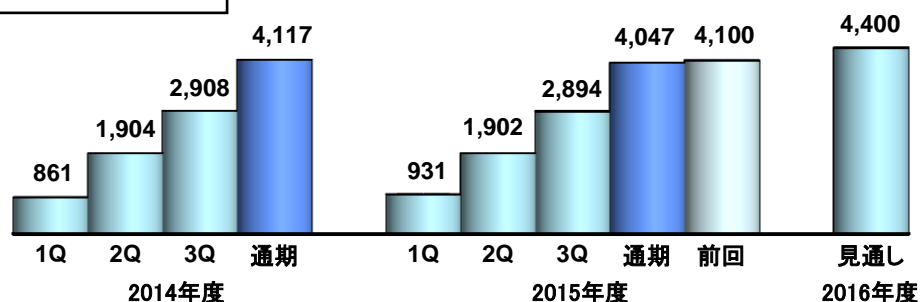
【受注高】

運搬機械, 圧縮機及び小型原動機の増加により, 前期に比べ増加となりました。

【売上高】

熱・表面処理や圧縮機の増収があったものの, 製紙機械及び車両過給機の減収により, 前期に比べ減収となりました。

売上高

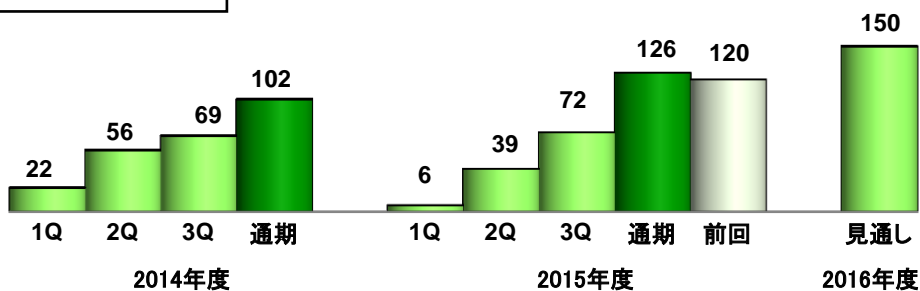


<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	販売台数
2014年度	589
2015年度	536
2016年度(見通し)	650

営業利益



<対前回見通し 増減内訳>

ほぼ前回見通しどおりの実績となりました。

<2016年度見通し>

2015年度実績に比べ, 増収, 増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高			売上高								
	'14年度	'15年度	'16年度	'14年度				'15年度				'16年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
運搬機械	282	358	350	28	68	140	204	35	98	156	218	300
パーキング	398	396	400	65	167	271	421	87	195	298	426	400
熱・表面処理	292	298	380	45	112	171	275	70	145	231	317	400
車両過給機	1,682	1,620	1,900	407	832	1,233	1,677	440	828	1,218	1,616	1,900
回転機械	495	487	500	88	196	311	471	84	194	295	464	500

・2016年度のSBU再編に合わせて、「圧縮機」を「回転機械」(圧縮機, 分離装置, 船用過給機など)に変更し, 2015年度までの実績を見直しています。

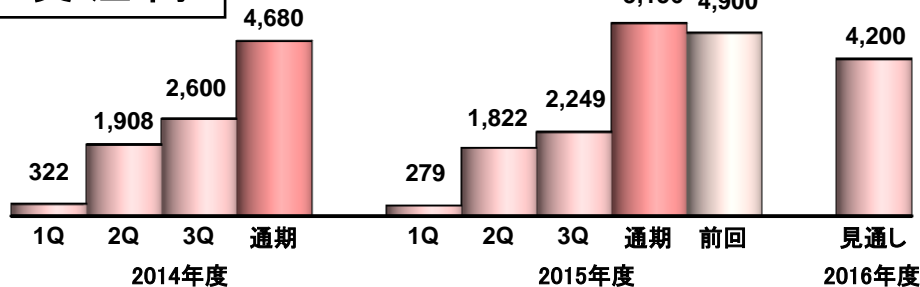
・「車両過給機」の詳細は, P34の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

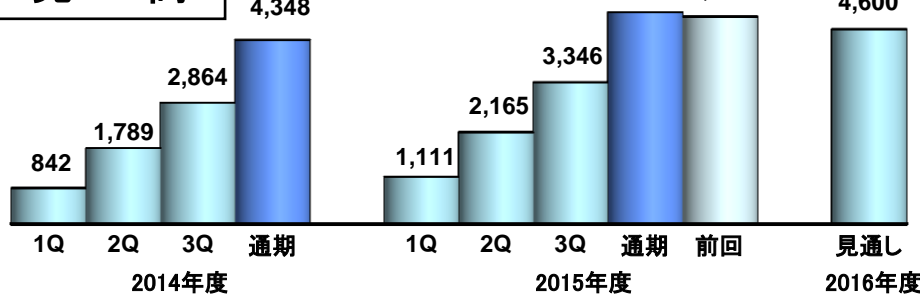
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2016年2月2日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

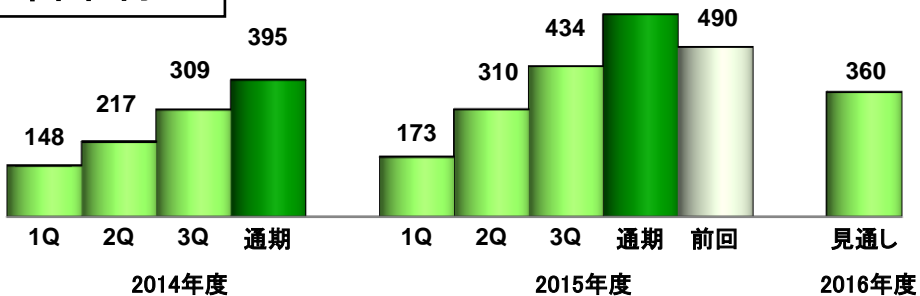
受注高



売上高



営業利益



<対前期 増減内訳>

【受注高】

防衛省向け航空エンジンの増加により、前期に比べ増加しました。

【売上高】

為替円安の影響などにより民間向け航空エンジンが増加したことや、防衛機器システムにおいて艦艇用ガスタービンの引渡しがあったことなどにより、前期に比べ増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	販売台数
2014年度	1,352
2015年度	1,260
2016年度(見通し)	1,450

【営業利益】

次世代大型機用航空エンジンGE9Xに関わる開発費などの増加があったものの、上述の増収効果及び民間向け航空エンジンの採算改善により、前期に比べ大幅な増益となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

民間向け航空エンジンを中心に、増収・増益となりました。

<2016年度見通し>

売上高は、為替影響などにより、減収を見込んでいます。営業利益は、為替影響に加え、売上増加を予定しているPW1100Gエンジンが、売上開始当初は低採算であるため、減益を見込んでいます。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

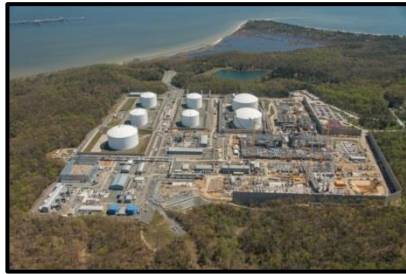
	受注高			売上高								
	'14年度	'15年度	'16年度	'14年度				'15年度				16年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,535	2,761	2,900	625	1,267	1,973	2,670	778	1,490	2,242	2,991	3,000

・「民間向け航空エンジン」の詳細は、P33の<参考資料>をご覧ください。

< 参考資料 >

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2016年4月現在



プロパンクーラー据付

<進捗状況>

2016年3月末現在で、設計はおよそ99%完了し、機器の発注は98%完了している。建設は31%進捗している。前処理エリアの機器据付が開始された。パイプ、構造用鋼の架設及び製作は進行中である。

<主要工程>

2013年4月: 契約締結
 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
 2015年3月: 起工式挙行
 2016年末: DCS(プラント制御装置)運転開始
 2017年中頃: メカニカル・コンプリーション
 2017年10~12月: 運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転および運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2016年3月現在

<進捗状況>

2016年3月現在, 建設地では海上埋立作業(他社所掌)は約40%完了している。ボイラ部分の進捗は設計:40%, 調達:10%, 全体:約10%。

<主要工程>

2014年 8月: 契約締結	2018年10月: 火入れ(#1)
2017年 1月: 立柱(#1)	2019年 4月: 火入れ(#2)
2017年 7月: 立柱(#2)	2019年 6月: 運転開始(#1)
2018年 4月: 水圧試験(#1)	2019年12月: 運転開始(#2)
2018年11月: 水圧試験(#2)	

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焼き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績											見通し
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				'16年度 通期
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
売上高	1,436	1,698	2,260	625	1,267	1,973	2,670	778	1,490	2,242	2,991	3,000

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)											主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	リージョナルジェット (70~110席級)
GEEx							118	259	468	751	1,035	ボーイング B787/B747-8
PW1100G											16	エアバス A320Neo
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	

(注)販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績											見通し
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				'16年度 通期
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
日 本	331	339	353	90	184	275	375	84	172	255	346	330
ア ジ ア	169	248	298	72	137	207	275	78	129	166	216	220
中 国	143	181	234	63	128	175	243	71	118	179	249	520
北 米	11	13	16	4	9	13	18	5	12	18	24	20
中 南 米	0	0	0	0	0	1	7	8	16	24	34	70
欧 州	437	432	602	176	372	558	756	192	378	573	743	740
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	407	832	1,233	1,677	440	828	1,218	1,616	1,900

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績											見通し
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				'16年度 通期
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
賃貸収入	95	92	91	22	46	69	93	25	50	76	101	92

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
2015年度	101	37	28	36

(3) 豊洲地区 賃貸等不動産の期末時価評価額等

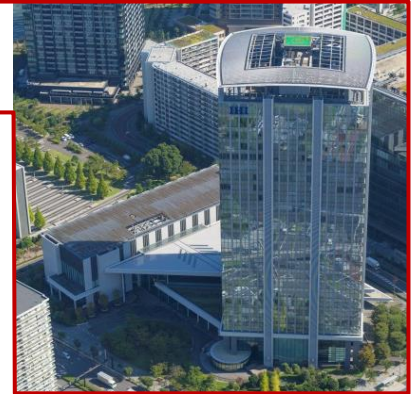
(億円)

	連結貸借対照表計上額			期末時価	期末時価 - 期末残高
	期首残高	期中増減額	期末残高		
2015年度	702	▲71	631	1,915	1,284

(注)連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。
期末時価は、社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づいて算定した金額です。

豊洲1～3丁目地区 開発マップ

豊洲Hビル
 地上25F, 高さ:約125m, 延床面積:97,617㎡
 2006年2月竣工



幼稚園, 保育園, カフェ, 結婚式場
 敷地面積: 19,492㎡
 2010年3月～2011年2月竣工



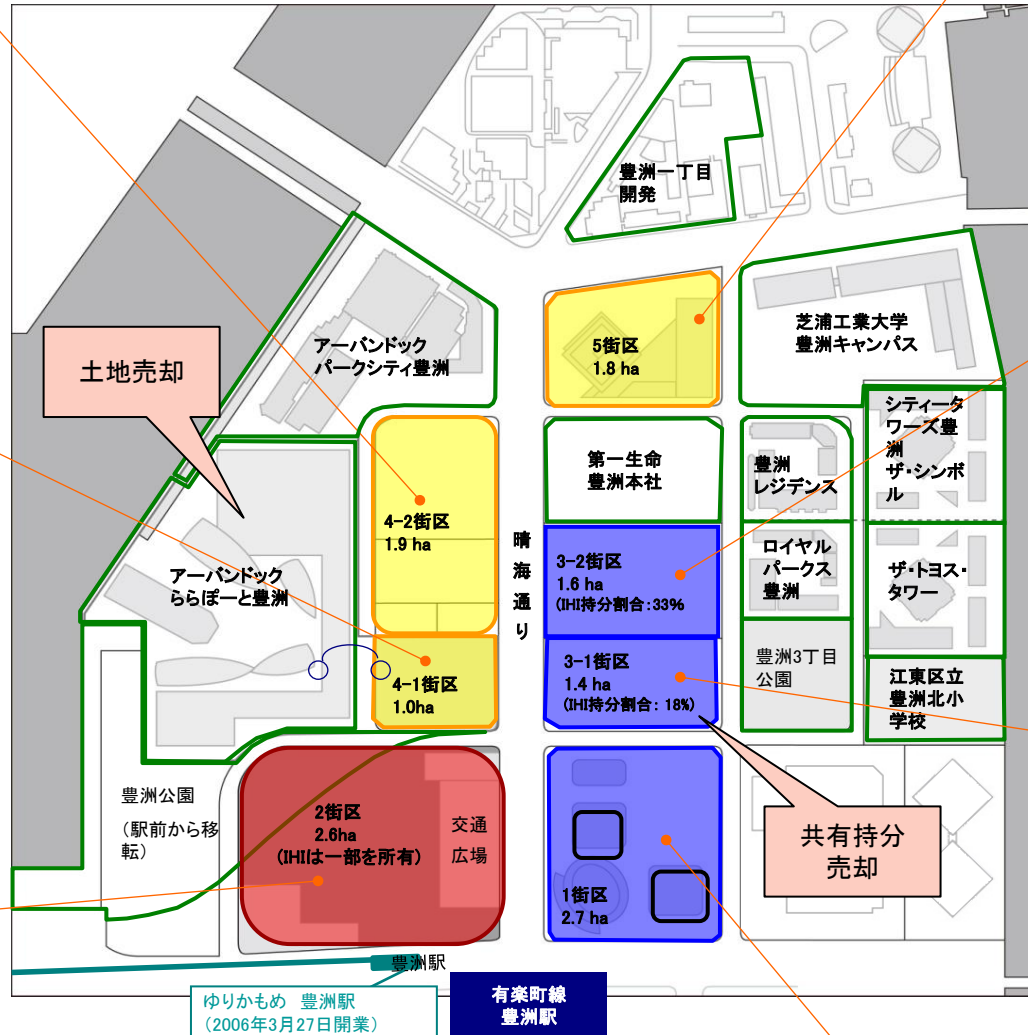
アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX
 (三井不動産)
 地上5F, 高さ約25m, 延床面積:24,721㎡
 2006年10月開業



事務所棟
 (IHI, 三井不動産)
 開発中

シビックセンター棟: 2015年9月開業
 消防署棟: 建設工事中

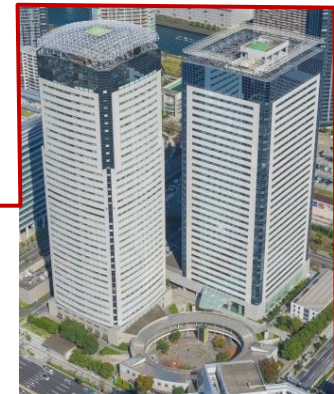
土地売却



豊洲フォレシア
 (IHI, 三菱地所(SPC))
 地上16F, 高さ:約75m, 延床面積:101,503㎡
 2014年7月竣工



豊洲フロント
 (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
 地上15F, 高さ:約75m, 延床面積:106,861㎡
 2010年8月竣工



豊洲センタービル
 地上37F, 高さ:約165m, 延床面積:100,069㎡
 1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
 地上33F, 高さ:約150m, 延床面積:105,448㎡
 2006年8月竣工

IHI所有地	約8ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。